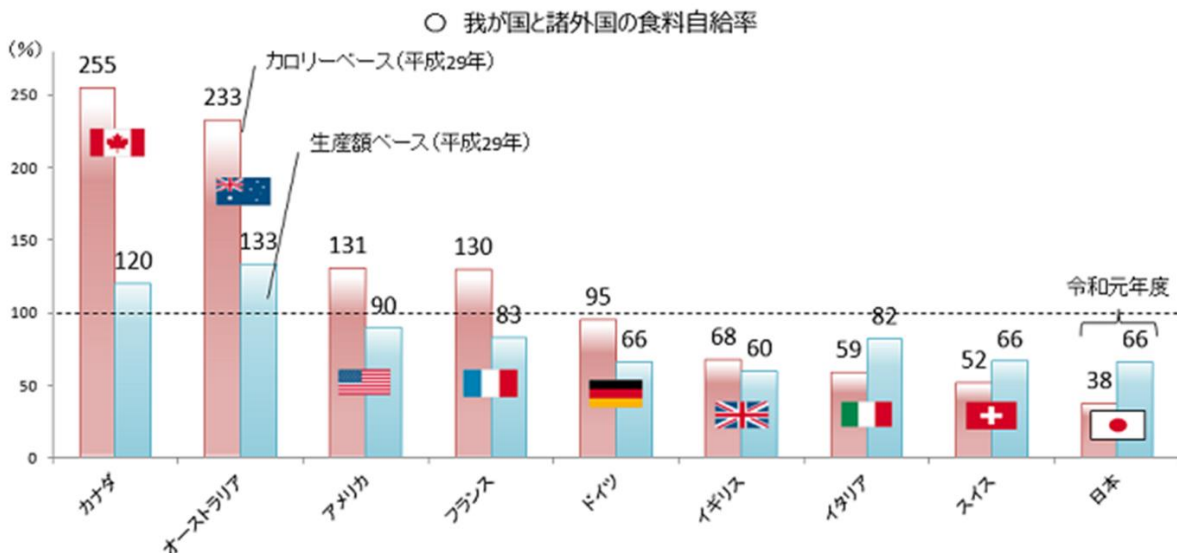


# 日本の食料自給率に関するポイント

- ▶ 日本の食料自給率は先進国の中で最低
- ▶ カロリーベースの自給率は38%、生産額ベースでも66%
- ▶ 自給できているのはコメだけ、他の食品は半分以上輸入に頼ってる
- ▶ そのコメの需要は過去60年間で半分 → 減反政策・補助金パラマキ
- ▶ 農耕地面積は過去60年間で3/4に減っている（過剰米、農民の高齢化）
- ▶ 小麦はたった15%しか自給できていない。（パン、麺、菓子、パスタなど）
- ▶ 肉の消費が、戦後10倍に拡大 → 飼料となるトウモロコシは殆ど輸入
- ▶ 肉の国産化率はその飼料分を引いた自給となると、全て一ケタ台
- ▶ 野菜の国産化率は高いが、その種苗は外国産に頼っている
- ▶ 基本法では、自給率目標を2030年度45%としているがこれで十分か？
- ▶ 民間の調査研究では、反対に現在の半減と予測しているが、今のままでよいのか。



資料：農林水産省「食料需給表」、FAO “Food Balance Sheets”等を基に農林水産省で試算。（アルコール類等は含まない）  
 注1：数値は暦年（日本のみ年度）。スイス（カロリーベース）及びイギリス（生産額ベース）については、各政府の公表値を掲載。  
 注2：畜産物及び加工品については、輸入飼料及び輸入原料を考慮して計算。

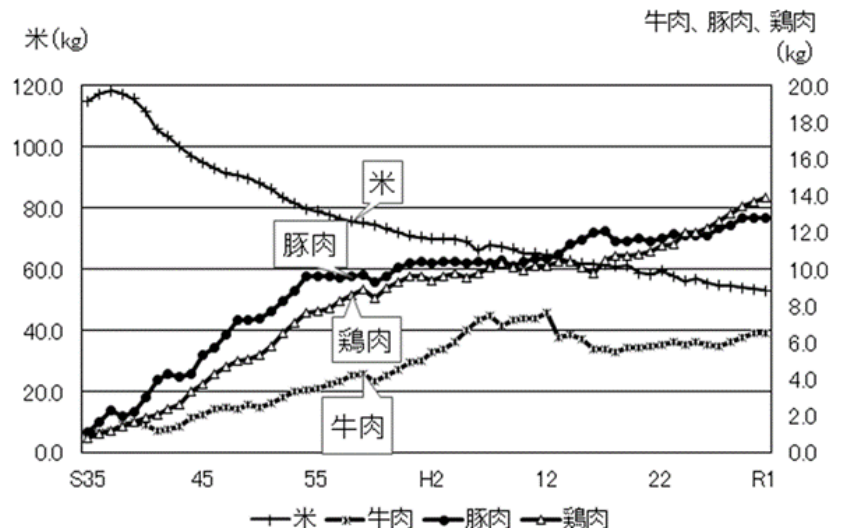
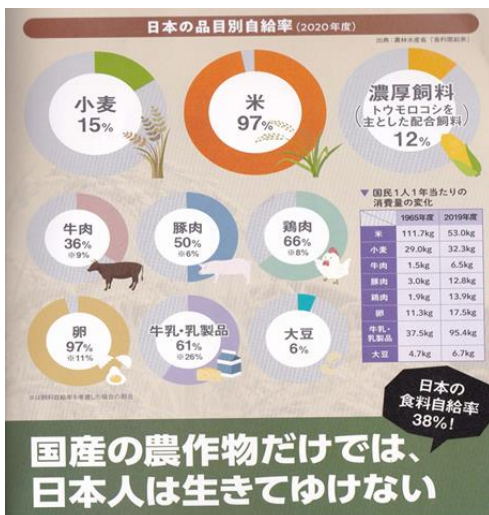
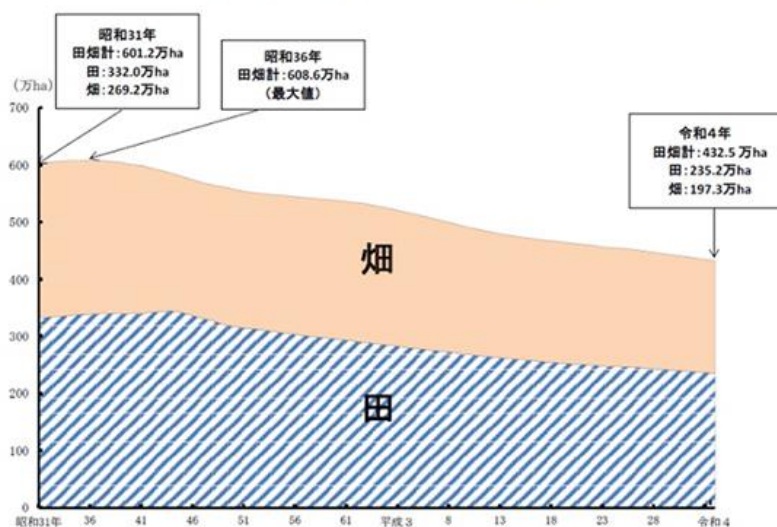


図2 田畑別耕地面積の推移（全国）



食料・農業・農村基本計画における食料自給率等の目標

		平成30年度(基準年度)	令和12年度(目標年度)
法定目標	供給熱量ベースの総合食料自給率	37%	45%
	生産額ベースの総合食料自給率	66%	75%

飼料自給率	25%	34%
供給熱量ベースの食料国産率	46%	53%
生産額ベースの食料国産率	69%	79%

